

キャンパス点描

楊逸氏公開講演会 「お茶大で学び新聞記者から文筆職人への道」



第139回芥川賞を受賞された本学出身の作家・楊逸氏を講師にお迎えし、2009年1月31日、「お茶大で学び新聞記者から文筆職人への道」と題する公開講演会が開催されました。楊逸氏は、1995年に本学文教育学部地理学科（当時）を卒業され、その後、中国語新聞の記者や中国語の講師として勤め、初めて日本語で書いた小説『ワンちゃん』で第105回文学界新人賞、さらに『時が滲む朝』で芥川賞の受賞となりました。中国人女性作家としては史上初の受賞です。

講演会当日は、午前中の嵐が嘘のように、楊逸氏の朗らかなお人柄をあらわすような好天とともにお話が始まりました。本学の地理学科で毎日有意義にかつ楽しく過ごされたことを生き生きと述べられ、とくに地理学科の実習の一つである「巡検」の体験によって、日本という国、それも東京ではない別の場所の存在を実感として知ることができ、現在、小説を書く際にも無意識のうちに影響を与えられている、と話されました。また、幼い頃の「下放」のご体験についても、いくつかの印象深いエピソードとともに語られ、日本人参加者の想像だに及ばぬ楊逸氏の深い思いに、参加者の全員が深い感銘を受けました。

午前中の悪天候にもかかわらず、300名をこえる参加者が集い、講演会終了後には、ご著書へのサインを求める人の列が長く続きました。





2008年11月8日、9日の2日間にわたって徽音祭が開催されました。59回目にあたる今年度のテーマは「凧 ～今日は祭食研日～」で、構内は様々なイベントや模擬店などによる盛り上がりを見せ、2日間で14,000人以上の来場者におこしいただきました。

茶室披きを記念しての扁額除幕式・記念講演会



2008年11月8日、茶室（庵号「芳香庵」）披きを記念した、扁額除幕式及び記念講演会が開催されました。記念講演会では、利休居士第15代鵬雲斎千玄室大宗匠による『茶の文化の心』と題した講演が行われ、「茶」を通じた人々との交流や、人の「心」のあり方など、非常に興味深いお話を伺うことができました。



母校でもう一度学びませんか

—科目等履修生、聴講生を受講される本学卒業生の方は入学料無料—

お茶の水女子大学では現役の社会人はじめ、家庭に入った方、もう一度ブラッシュアップして再就職を考えている方、さらに知識や専門性を高めたい方など、母校で再び学ぶ意欲のある本学卒業生・修了生の応援をいたします。

本制度の内容

対象者	本学卒業生（本学学部から本学大学院博士前期課程に飛び入学した者を含む）、及び修了生（大学院博士後期課程の単位修得退学者を含む）
内容	科目等履修生、聴講生を対象に入学料を無料

詳しい内容につきましては大学HPをご覧ください。

<http://www.ocha.ac.jp/topics/h210203.html>